

# 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産候補地地域連絡会議 平成 30 年度第 3 回西表島部会 議事概要

■日 時：平成 30 年 12 月 18 日（火） 14:00～16:00

■場 所：竹富町離島振興総合センター

■出席者（敬称略）：

区分	所属	役職	氏名
行政機関	環境省那覇自然環境事務所	国立公園企画官	速水香奈
		自然保護官	黛絵美
		上席自然保護官	竹中康進
		自然保護官	北浦賢次
		上席自然保護官	藤田和也
	林野庁九州森林管理局沖縄森林管理署	森林技術指導官	曲瀬川淳一
		森林官	高倉博文
		森林官	阿南達也
	林野庁西表森林生態系保全センター	生態系管理指導官	山部国広
	沖縄県自然保護課	室長	小渡悟
		主任	志賀俊介
	沖縄県観光振興課	主事	吉里大地
	竹富町政策推進課	課長	通事太一郎
課長補佐		仲盛敦	
竹富町教育委員会社会文化課	課長	新盛勝一	
石垣市環境課	自然環境係	玉城佐和子	
地元関係団体	竹富町商工会	会長	上勢頭保
	竹富町観光協会	副会長	大島佐喜子
	西表島エコツーリズム協会	事務局長	徳岡春美
	西表島カヌー組合	組合長	近澤清
	沖縄県猟友会 竹富町地区	地区長	河合正憲
	西表島交通グループ	代表取締役社長	玉盛雅治
	いりおもて観光（株）	代表取締役社長	屋宜靖
	（資）浦内川観光	代表者	平良彰健
	八重山観光フェリー（株）	運航部次長	浅井啓介
	NPO法人トラ・ゾウ保護基金西表島支部やまねこパトロール	事務局長	高山雄介
		施設長	梶田忠
	琉球大学熱帯生物圏研究センター西表研究施設	副施設長	渡辺信
統括部長		松井孝子	
運営事務（受託者）	株式会社プレック研究所	主査	西村大志
傍聴者	22 名		

## ■議 事

1. IUCN 評価書への対応について
2. 包括的管理計画の改定及び行動計画の更新について
3. 行動計画の管理成果の評価について
4. 西表島の観光管理に関する検討状況について
5. その他

## ■資料

- 資料1-1 世界遺産登録に向けたスケジュール
- 資料1-2 推薦書の概要
- 資料1-3 推薦書(案)抜粋
- 資料1-4 西表島における構成要素の調整状況について
- 資料2-1 包括的管理計画の修正方針
- 資料2-2 包括的管理計画(改定案)
- 資料2-3 西表島行動計画の見直し・更新(案)
- 資料3 行動計画による管理成果の評価方法及び作業スケジュール(案)について
- 資料4-1 西表島全体における観光管理のあり方(コンセプト)(案)
- 資料4-2 西表島における持続的観光マスタープラン策定作業部会 設置要綱(案)
- 資料4-3 持続的観光マスタープランの検討スケジュール
- 資料4-4 持続的観光の推進に関する現状・課題・方策(ヒアリング意見概要)
- 参考資料1 事業の評価指標及びモニタリングデータのとりまとめ結果
- 参考資料2 沖縄WGでの指摘事項と対応方針について

## ■報告事項

### 報告事項：住民意見交換会を踏まえた取組状況について

○議事に先立ち、11月の意見交換会以降の取り組みの進捗状況等について報告が行われた。

○報告された項目は以下の通り。

- ・観光客向けのマナーブックの作成及び配布について(沖縄県)
- ・JTAなど民間企業との共催による県道の除草活動の実施について(沖縄県)
- ・西表の子供達を対象とした西表の自然に関するイベントについて(沖縄県)
- ・11月の意見交換会の実施と意見交換の内容について(環境省)
- ・イリオモテヤマネコの交通事故防止のための連絡会議による草刈りの実施について(環境省)
- ・平成30年度第2回西表島部会における傍聴者からの意見及び感想について(沖縄県)
- ・西表島部会への地域住民代表の参加について(沖縄県)

## ■議事概要

### 議題1. IUCN 評価書への対応について

○IUCN 評価書への対応について、環境省より資料1-1、資料1-2、資料1-3、資料1-4に基づき説明が行われた。

○質疑応答の概要は以下の通り。

- ・推薦地の拡張について土地所有者と調整しているとのことだが、調整がつかない場合は推薦地にならないのか。

→土地所有者に文書を出し、必要に応じて訪問して話をしている。仲良川流域の昔水田だったところもよい湿地環境に戻っており、世界遺産に入れて一体的に保全をしていけるように、ご理解いただけるよう努めている。

### 議題2. 包括的管理計画の改定及び行動計画の更新について

○包括的管理計画の改定について、環境省より資料2-1、資料2-2に基づき説明が行われた。

○質疑応答の概要は以下の通り。

- ・推薦地と緩衝地帯以外の西表島全体が周辺管理地域になるということか。また、周辺管理地域では、自然公園法を含めて、新しく規制がかかるというものではないのか。
- その通りである。管理といっても追加的に何か規制をかけるということではなく、外来種駆除やロードキル対策といった広域的な取り組みが必要なものを、推薦地と緩衝地帯だけではなく周辺の地域でも行っていくというものである。
- ・モニタリングが行われるというわけでもないということか。
- イリオモテヤマネコの生息状況や外来種の侵入状況など、広域的に実施する必要のあるモニタリングについては周辺管理地域でも実施していく。
  
- ・観光管理の施設として登録後に遺産管理センターのようなものができると考えてよいか。是非そういった機能を持った施設を作ってほしい。地域と連携した取り組みを実施するためにも必要であり、地域の子供たちが楽しむ場としても使えるとよい。可能であれば西部地区にできるとよい。
- 古見に野生生物保護センターがありイリオモテヤマネコの保護の拠点になっているが、島全体の国立公園・世界遺産としての管理、ガイド制度の運用やエコツアーの取り組みを考えたときに、現地保護官としては拠点となる施設は必要だと考えており、要望しているところである。作った後にどのように管理してどのように使っていくかということが一番大切であり、地元の人たちと一緒にやらないとできないと思っているので、一緒に考えていきたい。
- 4地域それぞれに遺産の拠点となるようなところがあるべきだと思っている。どのような形で、どこにあるのが良いかということについては検討を進めたい。地域の方からどのように使いたいといった意見を出していただいて、それを踏まえて環境省としても考えていきたい。
  
- ・地域参加型管理として地域住民等の参加が重要であると書かれているが、そういったことが行動計画に書かれるのであれば地域部会に公民館長など住民の代表の方に来ていただいて事前に説明をして合意を得ないといけないのではないかと思います。地域が参加すること自体はよいと思うが、皆ボランティア等を含めて忙しく、さらに活動が増えれば負担になる。
- 西表島部会に地域住民代表の方々に入っていただくことは必要だと考えている。全公民館長に入ってもらおうと会議体として大きくなりすぎてしまうので、代表としてどのような方に参加していただくかと考えたときに、まずは年明けに一度14の公民館長との意見交換を行ったうえで住民代表の参加のあり方を決めていければと考えている。
- ・推薦書が提出される2月までの間に一般住民向けに推薦書や管理計画等の内容に関して説明する場を設ける予定はないのか。
- 推薦までに公式の会議等で説明を行う機会は、この西表島部会と地域連絡会議となる。1月の公民館長の集まりでも遺産価値や推薦区域など推薦書についての話や重要な管理の部分の説明は行いたいと考えている。
- 11月に意見交換会を行ったが、そのような機会を継続して作っていきたい。国立公園のパークボランティアにも外来種駆除などにしっかりと関わってもらいたいと考えており、そういった方の西表島部会への参加も含めて、沖縄県とも相談していきたい。

- ・資料 2-2 の 36 ページの緩衝地帯のところにエコツーリズムの拠点の整備を進めると記載されているが、緩衝地帯は基本的に遺産の価値を守るために設定される地域なので、できればこういった施設は周辺管理地域にまとめるのが適切だと思う。屋久島ではばらばらに様々な施設が作られて各施設でどのような情報が入手できるのかわからなくなっている。無駄な施設が作られないように集約して検討してほしい。
  - ・地域参加型管理目標に関して、西表の住民は人口 2300 人程度で運動会など地域の行事、お祭り、公民館活動、子供会、婦人会などいろいろなことをやっていて、今ある行事だけでも忙しい。公民館長になると竹富町からの仕事もいろいろ来て忙しい。今でも誰かが清掃活動に来ていなかったというくらいでぎくしゃくすることがある。観光産業をしている方は土日の公民館活動に出られず、亀裂が生じる。その中でさらに遺産関係の仕事を増やすと関係悪化の要素が増える。やれるときはやればいいと思うが、地域参加はとても大変である。もう一つの方法として草刈りのような活動に金銭的なインセンティブをつけることも考える必要があり、その予算も真面目に考えてもらいたい。施設を作るといふ話があったが作るのにもお金がかかり、ランニングコストもかかる。竹富町ではこれまでに、各公民館に誰も望んでいないコンポストを作っておいて回収したものをきれいに片付ける費用がないといったこともあった。そのようなことがないよう、住民が納得することを進めていけばおそらく一番の説明になると思う。
  - 全てをボランティアでやってもらうことを想定しているわけではなく、お金を出してお願いすることや、教育の中で一緒にできるようなこともあると思う。管理に関して一緒にできる方法を探していきたいということで、インセンティブを付けることも含めて記載している。協力金も一つの地域参加型管理だと考えており、そういった意味で利用者等との連携・協力についても記載している。各行政機関や団体を含め、様々な方々が加わって管理できるようにしていきたい。
  - 沖縄県では地域で活動している団体への補助事業について次年度の予算要求を行っている。そういったことも含めて地域の参加を促進して遺産管理につなげていきたい。
  - 推薦まで時間がないのでそういったことをやっていくことがわかるような資料を配布するとよい。どこが予算を出すのかといったことがわかるようになれば話がよりスムーズになる。
  - ・もし自然遺産に登録されて観光客が増えてきた場合に、ゴミやし尿の対策、水や電気といったインフラの対策はどのように考えているのか。
  - ゴミの処理については石垣市と連携を強化して処理の統一化を進めている。下水処理に関しても世界自然遺産を機に計画の見直しを進めており、予算がしっかりとついているものではないが、大きく進められるような事業を検討している。海岸漂着ゴミについては沖縄県の事業でより簡易に集めて処理できる仕組みを作れるように検討を行っている。
  - ・そういった事業の予算は国や県から出るとか、竹富町の税金から賄われるのか。
  - 世界自然遺産を機に増えた事業もあり、その多くは県や国の費用を使っている。ただし町の持ち出し分もないわけではないので町として予算を確保することは必要である。
- 西表島の行動計画の見直し・更新について、事務局より資料 2-3 に基づき説明が行われた。
- 質疑応答の概要は以下の通り。
- ・資料 2-3 の 4 ページの希少野生動物の交通事故等の対策強化のところに、今検討されているイリオモテヤマネコの交通事故対策の条例についても記入した方が良いのではないかと。

→今竹富町でいくつかの条例案を考えており、加えられるものについては適切な個所に加えることを検討したい。

・交通事故の原因についてはどのように考えているか。

→観光客自体は最近減ってきているが、パック旅行等の個人観光客が増えて2割程度になっており、それに伴って観光事業者が増え、飲食店の送迎等も含めて往来が激しくなっていることが一番の原因だと思う。ただし、これまでの88件の事故のうち起こした方を把握できている15件について、8割程度は地元の方である。観光客だけでなく地元の方にも交通安全の意識を啓発したい。

・それに加えて、ヤマネコが道路に出てくるが増えたということもあると思う。昔はそれほど目撃されることもなかった。ナイトツアーなどもある中でヤマネコが人に慣れてきて出てきてしまっているのが大きな要因ではないかと考えている。山の方に田んぼを復活させて餌をとりやすい環境を作るのも対策のひとつだと思う。

→そのように思う。車の往来が激しくなるとカエルや鳥の事故が増え、簡単に餌が取れるのでヤマネコが出てくる機会も増えると考えられる。昔水田だった箇所を活用して餌場にするといった取り組みをしたいという方もおり、一緒に取り組んでいければよいと思っている。

→旧水田の復活については、よい湿地環境に戻ってきているところもあるので、今の環境を踏まえながらどのように活用するか環境省としても考えていきたい。イリオモテヤマネコの観察のルールのようなものを作って啓発を行い、人馴れを抑制することも大事だと考えている。

### 議題3. 行動計画の管理成果の評価について

○地域別の行動計画の管理成果の評価について、事務局より資料3に基づき説明が行われた。

○質疑応答の概要は以下の通り。

・評価というのは行動計画の進捗状況なり達成度を評価するということか。それともモニタリング等を行う時の評価指標のことか。また、だれが評価するのか。

→その両方である。モニタリングの評価指標については環境省でも検討されているが、それとは別に行動計画の管理成果の評価を行っていく必要がある。事業ごとに一次評価者が評価を行い、西表島部会の承認を経て評価を確定するといった流れを検討している。

・最終的にはこの西表島部会が提出された評価、資料に基づいて行動計画がちゃんと進んでいることに責任を取るということになるのか。

→その通りである。項目が多岐にわたり一つ一つをすべて評価することは難しいので、事務局が提案した評価を西表島部会に承認してもらおうという形を提案したいと考えている

### 議題4. 西表島の観光管理に関する検討状況について

○観光管理に関する各種事業、特に、持続的観光マスタープランの現時点での検討状況について、事務局より資料4-1、資料4-2、資料4-3、資料4-4に基づき説明が行われた。

○質疑応答の概要は以下の通り。

・西表島の観光客数はかなり落ち込んできていて、一方でガイド事業者は爆発的に増えている。数十年前からやっていた業者がかなり経済的にもきびしい状況にある。上限人数を決めるのも大切だが、なぜ経済的に成り立っていないかということを経験的な面から考えていかないと島全体が活性化しないと思う。早めにある程度の整備をしていかないと今後ますます客が減っていくと危惧している。また、ガイドの登録制度も必要である。他地域の例を見ると、世界遺産に登録されても観光客が増えるのは

1〜2年かと思う。地元の観光業者が考えていかなければいけないと思う。

→持続的観光マスタープランを策定する中でそういったことも含めて皆さんから意見を聞きながら作っていききたい。まずはヒアリングに力を入れて広く実施している。作業部会ではプランを一から十まで完成させるということではなく、ヒアリングの結果も踏まえて西表島部会の皆さんに議論していただくためのたたき台となる素案をつくるものである。その中で例えば、この組織の中にいない方に議論に加わってもらう必要があるれば、設置要綱の第3条に基づいて参加していただくことも可能なので、議論を進めながら必要な方々の意見を吸い上げて進めていきたい。島全体として計画的な誘導を行っていくことを示す必要があり、来年度までに西表島部会を中心に議論を進めていく。

・船舶代理店をやっているが、沖縄県からは次年度からインバウンドからの港湾施設料金として、一人につき280円を徴収するようにと連絡が来ている。また国からは、入出国に際し税として一人千円徴収するようにとの通達も来ている。またそれぞれの所で入島料のような形でお金を徴収するという動きもあるが、県は承知しているか。

→一度確認させてほしい。徴収の目的等を確認し、メーリングリストや次の西表島部会の場で報告したい。

・持続的観光マスタープランの検討にあたってわからないこともあると思うので、作業部会のメンバーとして有識者にも入ってもらうことは可能か。

→設置要項の第3条にある通り、作業部会の会議の上必要に応じて参加いただくことが可能である。また第6条でも有識者から意見をヒアリングしてマスタープランに反映していくことを位置付けており、そのように運営していく。

・持続的観光マスタープランはどんどん観光客に来てもらうというものではなく、西表島の自然環境と住民生活への影響を最小限におさえるような観光はどのようなものかということを考えていくものになると思っているので、名称が持続的観光マスタープランでよいのかということと、自然環境や住民生活に関わる人もしくはそのようなことに関する有識者に入ってもらうことについてその都度検討し、西表らしい観光を作っていけるとよいと思う。

→名称については観光が前面に出ている印象を受けるといった意見もいただいております、表現として適切で受け入れやすいものを地域部会の中でも議論していきたい。作業部会で必要な方に話し合いに加わっていただくことも考えているが、大きな議論としては西表島部会の中での議論が中心になってくると思う。議論の流れを踏まえながら意見のとり入れ方について検討したい。

・作業部会のメンバーが観光業の方ばかりなので、ほかの業種や地元の代表者なども最初から入れておいた方がよいのではないかと。

→あくまでもたたき台作成の作業をする場ということで、必要最小限の方とし、代わりに住民代表や有識者からはヒアリングで意見をいただいて素案の中に入れ込むことにしている。その上で、様々な方が入っている地域部会の中で議論や意見交換を行っていききたい。

・地域部会にも観光事業者が結構入っている。観光マスタープランについて何かを決めたうえで観光に関する部分を検討するためにそのような方に入ってもらいたいということならわかるが、単に人数を限定するというのであれば作業部会にももう少しバランスを見て有識者などメンバーを追加した方がよいのではないかと。

→地域住民の代表については地域部会の中に入って継続的に意見をいただきたいと考えている。有識者については、先ほど話したように随時入っていただくという方法もあるし、ある程度まとまった段階

で有識者に意見を聞きながら次の作業に進んでいくという方法もあると考えている。

- ・作業部会のメンバーとして、交通関係者と行政機関を除くと観光協会とエコツーリズム協会が入っている。いま観光協会の組織率はあまりよくなく、宿泊部会もあまり動いていないと思う。作業部会の中でしっかりと観光協会員や宿泊業者の意見を吸い上げたうえで西表島部会での議論に進めてもらいたい。また、地域の意見を吸い上げるとなると様々な立場があると思うので、作業部会の途中ででも、ヒアリングをもう一度、もしくは対象者を変えて実施してはどうかと思う。
- 作業部会にご参加いただく各団体の方々からは、関係者の意見集約も含めて確実に意見を吸い上げていただくようにしたい。住民の方々にも素案ができあがった段階で一度説明する機会を設けることも検討したい。

- ・西表島部会の下部に設置する「西表島における持続的観光マスタープラン策定作業部会」について、ヒアリングで得た意見をしっかりと反映することを前提として、事務局案のとおり設置して持続的観光マスタープランの検討を開始することについて了解いただけるか。(沖縄県 小渡)
- (一同了解)

## 議題5. その他

○会議全体を通しての質疑応答の概要は以下の通り。

- ・行動計画について、生物多様性で推薦するのに生物多様性に関わる項目が少なく、特に植物に関する取り組みが少ない。情報提供として、いま琉球大学と美ら島財団で竹富町と包括的連携協定を結んで西表島植物誌の編纂事業を行っている。5年間の事業で、世界自然遺産の基礎資料となるような植物の分布の調査を行い、西表島植物誌という書物を作成して小中学校に配布する。行動計画の保護増殖事業の対象種以外の希少種等の生息・生育状況の把握の項目に書き込んでおくとよいのではないか。
- 行動計画に書き加えることができるかどうか検討したい。

- ・今日の会議の中身を見ていると、今後地域の方々が参画する部分がかかなりあると感じる。行動計画の見直しも西表島部会でやっていかなければいけない。持続的観光マスタープランができれば、それに関する見直しも出てくるし会議体も増えてくる。おそらく会議のたびに同じようなメンバーが顔を合わせるが増えてくると思う。西表島が世界遺産候補地として注目される中で、一般の企業から地元の人と協力して何かやりたいという申し出も増えてきている。世界遺産になるまでと、なったあとに維持していくためにやり続けなければいけないことに、地域住民が疲弊してしまわないかというところが不安である。その中で以前から何度も話が出ているように、行政の担当者がこの島にはいないので、沖縄県の世界遺産推進室が西表島に事務室を作るとか竹富町が世界遺産の担当者を常駐させるといったように、西表島に拠点をおいて住んで、地域住民の人と一緒に汗を流して、状況も理解してその時その時の課題を一緒に乗り越えていく人が必要だと思う。そういったことに関して計画をもっているか。
- 沖縄県では人の配置ということまでは至っていない。人を配置したいがまだ理解を得るには時間がかかるように思う。ずっと配置するのではないが、例えば我々が何日か来て特定の場所で定期的に相談、問い合わせ窓口を設けられないかということは考えている。「やります」と言いたいが、まだそこまではコメントできない。

- ・推薦書が一昨年出されて、そのとたんにスクールビジネスの業者からガイドの講習会をやりたいといった問い合わせが何件もあった。お金が集まってきそうだと考えて便乗するものかもしれない。ガイドを一括して管理しようとしているところに、資格のようなものが乱立すると屋久島のような懸念もある。そういったことの対策を考えているか。先に民間の資格等ができてしまうとそちらが正式だと思ってしまう人もいますので注意してほしい。

→その対策は持っていないのが現状である。今後竹富町でも条例を検討し、沖縄県でもガイドラインを作っていく中で、意見交換を図りながら検討していきたい。

以上